

「住用小学校の竿踊り伝承活動の取組」

1 学校名

奄美市立住用小学校

2 学年・人数

小学5年生から6年生(計11人)

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

10月 学習発表会前の総合的な学習の時間, 住用小学校体育館

(2) 発表の日時(場所)

11月 住用小学校学習発表会, 住用小学校体育館

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能, 伝統行事について

(1) 名称

西仲間竿踊り(にしなかまそおどり)

(2) 由来

200年程前から西仲間集落に伝わる伝統芸能である。1年間の五穀豊穰, 無病息災を祈願する踊りである。旧暦8月15日の十五夜行事として年に1回だけ踊り, 奉納する。また, 「竿踊り」の前には, まず同じく200年前から伝わる「悪綱引き」を行い, 次に「八月踊り」を踊り, それらの最後にこの「竿踊り」を踊ってクライマックスを迎える。昭和54年「県民俗文化祭」出演をきっかけに「西仲間竿踊り保存会」が結成された。また, 平成4年「奄美市無形民俗文化財」に指定された。

(3) 構成等

「竿踊り」は, 稲作作業の田植えから収穫, そして脱穀作業までを表現している踊りである。2本の竿を持つ人を中心に男女で円を成し, 周回しながら唄に合わせて踊る。「ヒョヤーレンコー」の掛声に合わせて男女が竿を持ち, 大きく回しながら近づいていくところがクライマックスである。唄は6番まであり, その中に「ヒョヤーレンコー」の掛声が入っている。

5 保存会や地域との連携の具体

伝統芸能への関心や郷土への誇りを高めるため, そして竿踊りの継承や踊り手の育成のため, 学校と地域, 保存会が連携・協力しながら取り組んでいる。本校区の一集落の伝統芸能だが, 学校の教育活動に位置付け, 高学年の総合的な学習の時間に取り組んでいる。また, 保存会の方をゲストティーチャーとして迎え, 隊形や踊り, 掛声や唄など限られた練習時間だが, 解説を加えてもらいながら指導を受けている。毎年学習発表会で保護者や地域の方々に披露しているため, 地域や保存会との連携・伝承態勢が整っている。地域の中には児童が伝承し発表する姿に感動を覚える方もいる。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

伝統芸能への関心や郷土への誇りを高めるため, そして竿踊りの継承や踊り手の育成のため, 学校と地域, 保存会が連携・協力しながら取り組んでいる。

そのために、学校応援団の一員である保存会の方にゲストティーチャーをお願いしている。また、「高学年になると竿踊りを踊る」ということが根付いていて、伝統芸能への意識は高く、保護者や地域の方々も発表を楽しみにしている。6年生は、5年生の時に取り組んでいるため、5年生にアドバイスし、協力する姿も見られる。そして、「竿踊り」の披露を案内文や学校便り、ホームページで広報している。

児童が十五夜行事に出席するよう子ども会育成会とも協力している。西仲間集落で行われる「悪綱引き」や「竿踊り」に参加・見学をすることで、地域の行事に実際にふれたり、イメージをつかんだりすることができる。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【踊り(田植えの様子)の練習】



【悪綱引き】



【西仲間竿踊り(クライマックス)】



【唄と掛声の練習】



【学習発表会での発表】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

児童： 唄と踊りを一緒にすることが難しく覚えるのが大変だった。大きな動きに心掛けきつかったが、一生懸命がんばりよい経験となった。島口（島の方言）にはいろいろな意味があることを知った。

西仲間には、悪綱引きや竿踊りなどの伝統行事があるので、自分たちが引き継いでいきたい。

保護者： 我々もなかなか踊れない竿踊りを力強く踊り、伝統芸能を受け継いでいる姿は頼もしいし、うれしく思う。

地域： たくましく竿踊りを発表してくれた。声も出ていて、踊りもやる

気のある感じがよかった。伝統芸能を継承してくれてうれしく思う。

保存会： 練習の度に上手になっていった。伝統芸能を保存・継承していくことは大変だが、学校でこのように取り組んでくれることはありがたい。

教員： 学校からの練習依頼に対して、快く引き受けてもらい感謝したい。歌詞や掛声の意味や動きの由来なども分かりやすく説明してもらい、児童も意味を考えながら練習・発表に臨めた。今後も地域の方々と協力しながら伝統を受け継がせていきたい。